水産科学の分野で活躍する女性たち 54

Dynamic Women@Fisheries Science 54

海の生物に魅せられて

大村文乃

日本大学芸術学部デザイン学科

AYANO OMURA

Design Course, College of Art, Nihon University,
Nerima-ku Tokyo 176-8525, Japan

祖母の家は、二階の窓から三浦海岸を見ることがができる横須賀にありました。私は幼いころから海の生物が大好きで、三浦海岸油壺でアゴハゼやイソシジエビなどを採って遊んでおりました。生物の色や形はとても美しく、その生物が存在する自然の仕組みは不思議であり、時間を忘れて見入っていました。また、様々な生物の美しい絵が記載されている図鑑を眺めることも好きで、図鑑はまるで自然の作り出した美しい宝石のカタログのように見えました。小学校1年時の夏休みには磯などで採集した生物を記録したオリジナルの「しぜんずかん」を作り、生物に親しんでいました(図1)。

絵を描くことが好きだったのでよく生物の絵を描いていましたが、中学生の時に美術室で絵を描いていると生物の先生が遊びに来て、私の絵を見て解説をはじめました。「生物の形には、その生物が生きていくための意味がある」と教えてくださったことから、美しく不思議な形をしている海の生物を学びたいという気持ちが強くなりました。水族館や臨海実験場にも度々訪れていたことから、大人になったら海洋生物の研究者になりたい、さらに生き物の面白さを子供に伝えることができる研究者になりたいと自然と思うようになっていました。

「海洋大は海の生物を扱う実習が沢山あってとても楽しい」と多くの先輩方から聞いていたため、学部時代は東京海洋大学に進学しました。海洋生物の本の著者に東京水産大学(現:東京海洋大学)の先生が多かったことも大きな決め手となりました。今でも海洋大における遠泳やカッター漕ぎは良い思い出となっています。

図1 左: 小学1年時の夏休みに制作した「しぜんずかん」表紙, 右: ウニの観察頁
「八月十二日 くもり あめ ごぜん 11 じ
ばしょ: あぶらつぼのしおだまり なまえ: パフンうに
かんさつ: とげが はのかたちになっていたの
とてもきれいだった」

ます。特に印象深い思い出は無脊椎動物学実験のスケッチ指導の厳しさと楽しさです。丁寧に解剖し、同定形質と共に機能形態学的な構造も正確に描き分ける必要があり、とことん観察するという訓練をしていただいたと思っています。将来研究者になったら海洋生物教育にも携わりたいという夢もあったため、学部時代に学芸員の資格と教職免許も取得しました。

卒業論文では無脊椎動物学研究室にて、ろ過食性巻貝キサゴの摂餌選択性を調べておりました。その後、東京大学大学院海洋研究所(現・大気海洋研究所)に進学し、アサリの摂餌生態と消化吸收機構をテーマに研究を行いました。修士課程では研究手法だけではなく、水産資源保全における生物そのものの生態学的知見の大切さも学ぶことができました。研究をしているうちに、やはり「なぜその形をしているのか」「その形はどのような利点があるのか」という部分を特に面白く感じ、博士課程からは解剖学・形態学を専門とする東京大学総合研究博物館に籍を移し、魚類・両棲類の体幹部形態による環境適応戦略の研究をしました。博士課程時代は様々な研究手法を経験したく、学ぶ対象生物に枠を作らずに人体解剖等も行っていました。また、3度の博物館展示作成やさまざまなアウトリーチを経験し、どのように生物学を社会に伝えていくかを深く考える機会を得ました。

昨年度からは学習院大学付属の生涯学習施設にて、親子向けおよび一般向けの海洋生物講座、水族館講座、水産教育なども行っています。私が開発した教材と共に「魚の切り身」「イカ・タコの腕」などを用いながら進める講座はとても盛り上がりしました。アンケートでは日常にも科学の視点を持つことができたことと高評価をいただくことができました。

現在は頭足類の機能形態学的多様性を調べながら、海洋生物の教材開発を行っています。特に私の専門である機能形態学的視点は視認性が高いため、教材製作にも非常に有用となります。そこで、機能形態学的な視点を取り入れ、海洋教育教材の開発を行っています。幼いころ海の中を覗いてわくわくした気持ちを忘れずに、科学絵本の制作にも携わっています(図2)。海洋生物に興味を持ち、海洋環境や水産資源保全に意識を向ける子供が一人でも増える世の中になればと思っています。

研究は思い通りに進まないことが多く、優秀な周りの研究者と自分を比較して焦ることもあります。しかし、生物を見ている時はただ幸せを感じ、美しく面白い形をしているなあと感じます。顕微鏡を覗いて見た像の美しさに、また頑張ろうと励まされます。自分が夢に見た研究者像にはまだ全く届いていませんが、大好きな頭足類と実直に向き合うとともに、研究成果を次世代が喜ぶような美しい科学絵本等に還元できるようにしたいです。これまでご指導くださった先生方や憧れの先輩研究者を目指し、一步一步自分の研究人生を切り開いていきたいです。

図2 「カコボラ」私が描いた水彩画